



和田っ子通信

令和5年度 No. 8
 福井市和田小学校だより
 発行日 令和5年12月1日(金)
 〒918-8238 福井市和田1-2-1
 TEL:22-8817 FAX:22-6121

木枯らし吹けども 心はあたたかに……

今年も早いものであと1ヶ月となりました。一般的に12月は、「師走」と言われますが、他に「歳極月」「春待月」とも呼ばれるそうです。年が明けると3ヶ月は、学年のまとめや進級・

進学への準備に入ります。学校では、県学力調査(5年生)やCRTテスト(各学年)を実施し、児童の学力の状況等を把握します。ただ大事なものは、テストの正答率だけでなく1年間の教育活動を通して身につけた力(思考力・判断力・表現力など)のみならず、数値に表れない力(想像力、対話力、努力、心の力……などミエナイチカラ)を含めて、児童の成長を捉えていくことだと思います。

児童は確実に成長しています。それを認め気付かせ、褒めて伸ばすことこそが大人の務めと考えています。今年1年間ありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいたします。(文責：勝木)



ある日の出来事から

秋空の下、河川敷を駆け抜けて……

～校内マラソン大会～

11月1日、心地よい秋晴れの日、足羽川河川敷で、校内マラソン大会が行われました。低学年1.0km、中学年1.7km、高学年2.7kmの距離を走りました。各学年の児童はそれぞれ、最後まで一生懸命に走っていました。また、見学しているときは、心から声援を送る姿を多数見ることができました。

「近代オリンピックの父」と呼ばれるピエール・ド・クーベルタンは、「参加することに意義がある」との言葉を残したと言われますが、実際は、「オリンピックの理想は、人を育てること。だから、参加するまでの過程が大事である。人生にとって大切なことは、成功よりも努力すること」と考えていたようです。

結果はどうであれ、大会まで、そして大会でゴールするまでの努力で、児童は、自分に打ち勝つ心を手に入れたのだと信じています。児童の皆さん、お疲れ様でした。そして、みんなへの温かい応援をありがとう。



やさしさの輪をみんなに広げよう

～4年生 総合「福祉体験学習」～

4年生は、総合的な学習「みんなで広げよう やさしさの輪」の時間に、福祉について学習しています。11月6日には、視覚に障害を持っていらっしゃる方から、お話を伺いました。

洗濯物の取込や掃除・調理等、1日の生活の様子を、映像を通して教えていただきました。児童は、調理のとき、包丁で手際よくネギを刻む姿を見て、驚いていました。また、衣服は同じ形のものを買わなかったり、入れ物は点字で区別したりと、触って気付くように工夫されていることが分かりました。そして、マラソンや登山など、さまざまなことにチャレンジし、それを通して知り合った仲間をととても大切にされていることが分かりました。児童からは「困っていたら、助けたい」「これからも楽しい人生を過ごしてほしい」などの感想が寄せられました。



また、11月28日には、市の社会福祉協議会の方と福祉体験を行いました。

高齢者疑似体験では、腕と足におもり、手には手袋、頭にゴーグルをつけ、雑巾がけをしたり、立ち座りや階段の上り下りをしたり、お金を数えたりしました。ここでは、高齢者の動きづらさ、見づらさを体験しました。車椅子体験では、車椅子の扱い方や介助の仕方を学んだ後、実際に車椅子を扱って、段差を上り下りしたりS字クランクを進んだりしました。アイマスク体験では、アイマスクをした児童を言葉で介助していました。階段の上り下りや廊下での誘導では、なかなか言葉で伝えられずに、柱にぶつかりそうになったり、階段につまずきそうになったりして、苦労していました。



この体験を通して、高齢者や障害をもつ人の気持ちを想像することができ、思いやる気持ちの大切さを学んだようです。

学校で育てた赤大豆を収穫しました

～3年生総合「地域の宝」～

11月7日に、猛暑の夏を乗り越え、鞘が大きくふくらんだ赤大豆を収穫しました。これは、3年生が、7月4日に「和ん田フル農園」の方と一緒に学校の中庭に種まきしたものです。

児童は、まず、農園の方に収穫の仕方を習い、学級ごとに分かれて、鞘から赤大豆はずしました。赤大豆として320g、枝豆は1kg収穫できました。

その後、枝豆は塩ゆでして、3年生全員でいただきました。



協力し合ってよい学校をつくろうよ

～2学期委員会活動の紹介～

11月8日、2学期に入り、委員会活動もメンバーが替わったので、改めて委員会活動の紹介がありました。

5、6年生が前に立ち、代表が「活動のめあて、内容、お願い」を発表していききました。発表する5、6年生もさすがですが、聞いている下学年のまなざしも真剣でした。児童会は、委員会活動を柱に運営されています。児童会活動のねらいは、児童自らよりよい学校生活するために諸問題を話し合い、協力して解決していくことです。このことから、学校は児童一人一人が主役であり、よりよい学校にするために全校児童が協力することが大切である、と話しました。どのような変容が見られるか、今後の展開が楽しみです。



ふるさとについて学びました

～2年生「町探検」6年生「ふるさと講演会」～

11月17日、2年生が生活科で「町探検」をしました。地区を4つに分けたエリアにある、それぞれのお店や公共の施設をまわって見学をしました。また、そこで働いている人へ仕事の内容や施設の特徴などについて、あらかじめ考えてきた質問をしていました。あいにくの雨模様でしたが、児童は元気に決められたコースを回っていました。

また、この日6年生は、ふるさと講演会で、ふるさと和田地区の歴史について話を伺いました。社会科では、著名な人物を通して日本の歴史を学習していますが、華やかな歴史のかけで、同じ時代、地方で生き抜いた人々の歴史にも触れてほしいと思ったからです。講師は、浄尊寺住職の恵美英丸先生です。先生からは、和田の地名にまつわる話や小学校や集落の周りが田んぼで囲まれていた話、幼かったころの小学校の話や世の中の様子、福井空襲や地震の様子等を教えていただきました。そして、和田地区出身の著名な人についても話がありました。最後に、戦争によってご家族を亡くされた体験から、「和を大切にしてほしい」ことや、特別な人でなく、普通の人々がコツコツと和田地区を発展させてきたことから、「地域を大事にしながら、一日一日を大切に過ごしてほしい」とのメッセージをいただきました。



大型量販店にお買い物に出かけました

～サポートわだ「買い物体験」～

11月20日、サポートわだ学級の児童が、クリスマスリース作りに使う飾りを買うために、大型量販店に出かけました。本当は、ここでの買い物体験を通して、お金や自動レジの使い方を学習するのがめあてです。

児童は、各々飾り付けに使うものを選んでカゴに入れ、自動レジでの支払いをしました。とても貴重な体験をしたと思います。家族との買い物でも経験を活かしてほしいと思います。



校長室から

「PEP TALK」

～可能性を引き出す言葉の力～

ペップトークとは、ポジティブな内容を短く分かりやすい言葉で伝える激励メッセージです。そのポイントは、「～しないように」という否定的な表現ではなく、「～しよう」という肯定形の言葉を選ぶことです。言葉は、本来イメージを現実化する力をもっていて、例えば「廊下は走るな」という言葉かけでは、「走る」をイメージし現実化してしまうので、「廊下は歩こう」と「してほしい言葉」に変換して伝えることが大切なのだそう。つまり、「嘘をつくな」でなく「正直に話して」とか、「どうして分からないの」ではなく「どこまで分かるの」という風に。他にも、短く分かりやすい言葉を使うなどポイントはありますが、その土台になる信頼関係が大切なのは言うまでもありません。

